

病害虫発生予察情報

向こう1ヶ月(5月)の予報

平成22年度 予報第1号

東京都病害虫防除所

〒190-0013 立川市富士見町 3-8-1

Tel 042-525-8236 Fax 042-529-0943

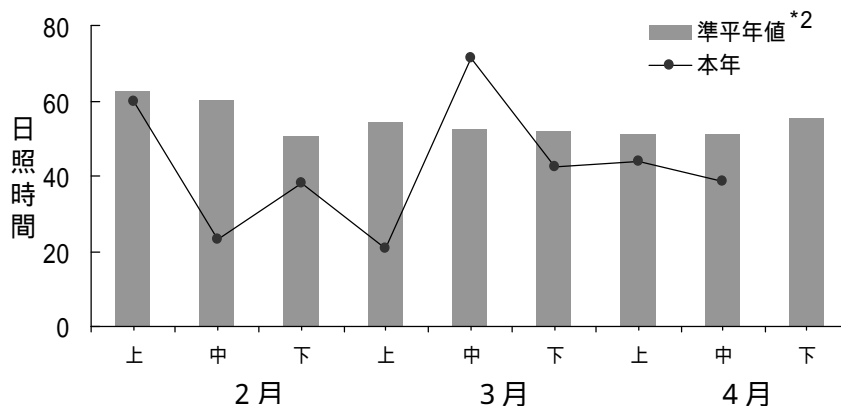
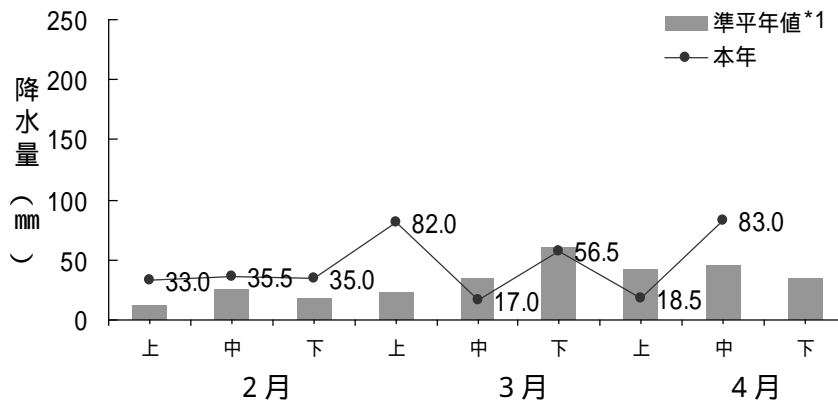
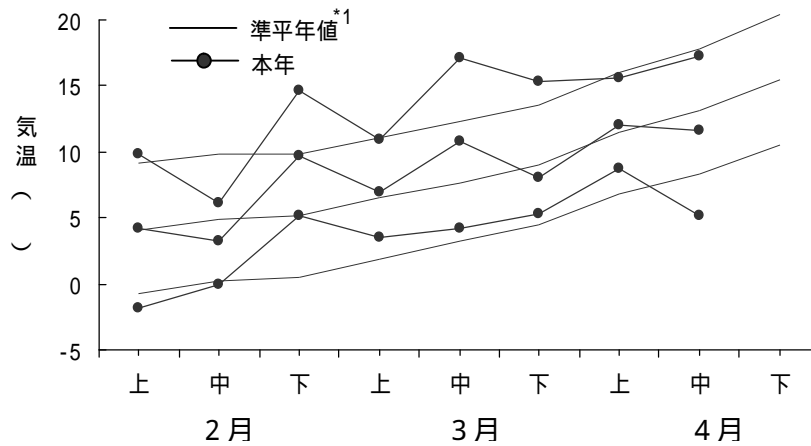
<http://www.jppn.ne.jp/tokyo>

e-mail: S0200303@section.metro.tokyo.jp

【気象予報】平成22年4月23日 気象庁 地球環境・海洋部発表，関東甲信地方の1か月予報より

| 確 率 | 要 素 | 低い(少ない) | 平年並 | 高い(多い) |
|-----|---------|---------|-----|--------|
| | 気 温 | 5 0 | 3 0 | 2 0 |
| | 降 水 量 | 3 0 | 4 0 | 3 0 |
| | 日 照 時 間 | 3 0 | 4 0 | 3 0 |

【気温・降水量・日照時間の経過】 準平年値と本年の4月中旬までのデータを示した。
(東京都府中市 気象庁気象観測所データ)



*1: 1979-2000 の平均値, *2: 1987-2000 の平均値

近年、無登録農薬が全国的に流通し、使用されている実態が明らかとなり、国民の「食」に対する信頼を損なう大きな問題となりました。

このため、2002年12月に農薬取締法が改正され、2003年3月10日からこの改正法が施行されました。主な改正点は、

無登録農薬の製造、輸入、使用の禁止（販売は従来から禁止）

農薬使用指針に違反する農薬使用の禁止

罰則の強化など

であり、農薬を製造・輸入・販売・使用するすべての国民に関係する内容です。

農薬は農林水産省の登録番号のあるものを、ラベルをよく読んで使いましょう。詳しい農薬情報は、農林水産省ホームページ（<http://www.maff.go.jp/nouyaku/>）の「農薬コナ」をご覧ください。

【病害虫発生予報】（各根拠に記した（ ）内記号は発生助長要因の強度を示す）

果樹の病害虫

1. ナシの黒斑病・黒星病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

- 1) 巡回調査では各地とも発生は少なかった。(-)
- 2) 気象予報によると気温は低く、降水量は平年並みと予想されるが、気温は5月第1週以降平年並みから高くなる見込みで、寒暖の変動が大きい。(±)

防除上考慮すべき事項

- 1) 初発を見落とさず、防除指針に従い薬剤を散布する。

2. ナシのアブラムシ類

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

- 1) 南多摩の巡回調査では被害新梢率0%で平年の14.3%よりも少ない。(-)
- 2) 今後、増加期を迎える。(+)
- 3) 気象予報によると気温は低く、降水量は平年並みと予想されるが、気温は5月第1週以降平年並みから高くなる見込みで、寒暖の変動が大きい。(+)

防除上考慮すべき事項

- 1) 防除指針に従い防除する。
- 2) 薬剤抵抗性の発達しやすいワタアブラムシやモモアカアブラムシの発生園ではローテーション散布を行う。

3. 果樹共通 カメムシ類（チャバネアオカメムシ・クサギカメムシ）

予報内容

発生時期 やや遅い

発生量 並

予報の根拠

- 1) 東京都福祉保健局の発表によれば、2009年春のスギ・ヒノキ科の花粉飛散量は平均よりやや多かった。(+)
- 2) 昨年度越冬期(2010年1～3月)の気象状況は、気温がやや高めに推移した。(+)
- 3) フェロモントラップへの飛来は、平年並みである。(±)

防除上考慮すべき事項

- 1) 通常、ナシなどの果樹園への飛来は開花期頃からとされるので、飛来に注意

して捕殺する。

- 2) 袋がけなどで果実への加害を予防する。
- 3) 飛来数が多い場合は防除指針に従い防除する。

茶樹の病害虫

1. チャノコカクモンハマキ

予報内容

発生時期 並
発生量 並

予報の根拠

- 1) フェロモントラップによる誘殺は、平年よりやや少ない。(-)
- 2) 今後発生のピークとなる。(+)
- 3) 気象予報によると気温は低く、降水量は平年並みと予想されるが、気温は5月第1週以降平年並みから高くなる見込みで、寒暖の変動が大きい。(+)

防除上考慮すべき事項

- 1) 防除指針に従い防除する。

2. カンザワハダニ

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

- 1) 寄生葉率は0%で平年の16.1%よりも低い。(-)
- 2) 気象予報によると気温、降水量とも平年並みと予想されるが、気温は1週目が低く、2週目が高くなる見込みで、寒暖の変動が大きい。(+)
- 3) 今後、増加期を迎える。(+)

防除上考慮すべき事項

- 1) 防除指針に従い防除する。
- 2) 一番茶摘採前に防除が間に合わない場合は、摘採後に防除を行う。

野菜の病害虫

1. トマト灰色かび病 (施設, 促成長期どり栽培)

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

- 1) 巡回調査では、各地とも発生はやや多い。(+)
- 2) 気象予報によると気温は低く、降水量は平年並みと予想されるが、気温は5月第1週以降平年並みから高くなる見込みで、寒暖の変動が大きい。(±)

防除上考慮すべき事項

- 1) 施設内の過湿に注意し、病果、病葉はただちに処分する。
- 2) 防除指針に従い薬剤を散布する。

2. トマト灰色かび病 (施設・半促成)

予報内容

発生量 並

予報の根拠

- 1) 巡回調査では、各地とも発生はやや少ない。(-)
- 2) 気象予報によると気温は低く、降水量は平年並みと予想されるが、気温は5月第1週以降平年並みから高くなる見込みで、寒暖の変動が大きい。(±)

防除上考慮すべき事項

- 1) 施設内の過湿に注意し、病果、病葉はただちに処分する。

2) 防除指針に従い薬剤を散布する。

3. トマト葉かび病(施設, 促成長期どり栽培)

予報内容

発生量 並

予報の根拠

- 1) 巡回調査では, 各地とも発生はやや少ない。(-)
- 2) 気象予報によると気温は低く, 降水量は平年並みと予想されるが, 気温は5月第1週以降平年並みから高くなる見込みで, 寒暖の変動が大きい。(±)

防除上考慮すべき事項

- 1) 過繁茂に注意し, 古い葉などは適切に除去する。
- 2) 肥料切れになると発病しやすくなるので, 肥培管理に注意する。
- 3) 防除指針に従い薬剤を散布する。

4. トマト葉かび病(施設・半促成)

予報内容

発生量 並

予報の根拠

- 1) 巡回調査では, 各地とも発生はやや少ない。(-)
- 2) 気象予報によると気温は低く, 降水量は平年並みと予想されるが, 気温は5月第1週以降平年並みから高くなる見込みで, 寒暖の変動が大きい。(±)

防除上考慮すべき事項

- 1) 過繁茂に注意し, 古い葉などは適切に除去する。
- 2) 肥料切れになると発病しやすくなるので, 肥培管理に注意する。
- 3) 防除指針に従い薬剤を散布する。

5. コマツナ・カブの白さび病(露地)

予報内容

発生量 並

予報の根拠

- 1) 巡回調査では, 各地とも発生はやや少ない。(-)
- 2) 気象予報によると気温は低く, 降水量は平年並みと予想されるが, 気温は5月第1週以降平年並みから高くなる見込みで, 寒暖の変動が大きい。(±)

防除上考慮すべき事項

- 1) 密植を避け, 雨よけ栽培(トンネルなど)を行う。

6. ネギさび病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

- 1) 巡回調査では, 各地とも発生はやや少ない。(-)
- 2) 気象予報によると気温は低く, 降水量は平年並みと予想されるが, 気温は5月第1週以降平年並みから高くなる見込みで, 寒暖の変動が大きい。(±)

防除上考慮すべき事項

- 1) 発生初期を見落とさないように, 防除指針に従い薬剤を散布する。

7. ネギおよびタマネギのネギアブラムシ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

- 1) 巡回調査では, 平均寄生株率が0%と低かった。(-)

- 2) 今後増加期を迎える。(+)
- 3) 気象予報によると気温は低く、降水量は平年並みと予想されるが、気温は5月第1週以降平年並みから高くなる見込みで、寒暖の変動が大きい。(+)

防除上考慮すべき事項

- 1) 本虫は萎縮病を媒介する。
- 2) 防除指針に従い薬剤を散布する。

8. ネギアザミウマ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

- 1) 巡回調査では、各地とも被害度は5でやや低い。(-)
- 2) 気象予報によると気温は低く、降水量は平年並みと予想されるが、気温は5月第1週以降平年並みから高くなる見込みで、寒暖の変動が大きい。(+)
- 3) 薬剤に対する感受性の低下傾向が現れている。(+)

防除上考慮すべき事項

- 1) 発生初期の防除を徹底する。
- 2) 定植時に土壌施用粒剤を使用する。
- 3) 防除指針に従い薬剤を散布する。

9. コナガ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

- 1) 巡回調査では、各地とも露地圃場での発生は少ない。(-)
- 2) フェロモントラップによる誘殺数は少ない。(-)
- 3) 気象予報によると気温は低く、降水量は平年並みと予想されるが、気温は5月第1週以降平年並みから高くなる見込みで、寒暖の変動が大きい。(+)

防除上考慮すべき事項

- 1) 例年5月中旬より発生が増加するので、薬剤抵抗性の出現に注意して、系統の異なる薬剤をローテーション散布する(防除指針アブラナ科野菜の各項参照)。

10. ヨトウガ

予報内容

発生時期 やや早い

発生量 やや多

予報の根拠

- 1) 昨秋の発生は各地とも平年並であった。(±)
- 2) フェロモントラップへの誘殺は4月上旬より確認されており、やや多い。(+)

防除上考慮すべき事項

- 1) 発生を見たら防除指針の各作物ごとに薬剤の散布を行う。

11. ネキリムシ類(カブラヤガおよびタマナヤガ)

予報内容

発生量 並

予報の根拠

- 1) 巡回調査では各地とも発生は平年並である。(±)
- 2) フェロモントラップ調査では、誘殺数は平年並みである。(±)
- 3) 気象予報によると気温は低く、降水量は平年並みと予想されるが、気温は5月第1週以降平年並みから高くなる見込みで、寒暖の変動が大きい。(+)

防除上考慮すべき事項

- 1) 各作物ごとに防除指針に従い、定植時および定植前または播種前に土壌施用剤を施用する。
- 2) 被害株周辺の土中にもぐっている幼虫を捕殺する。

12. オンシツコナジラミ（施設）

予報内容

発生量 並

予報の根拠

- 1) 長期どりトマトの平均寄生株率は50.0%で、やや多い。(+)
- 2) 今後、増加期に当たる。(+)

防除上考慮すべき事項

- 1) 発生を見たら防除指針に従い薬剤を散布する。

13. イチゴの灰色かび病（施設）

予報内容

発生量 並

予報の根拠

- 1) 巡回調査では、各地とも発生は平年並である。(±)
- 2) 気象予報によると気温は低く、降水量は平年並みと予想されるが、気温は5月第1週以降平年並みから高くなる見込みで、寒暖の変動が大きい。(±)

防除上考慮すべき事項

- 1) 施設内の過湿に注意し、病果、病葉はただちに処分する。
- 2) 防除指針に従い薬剤を散布する。

14. イチゴのハダニ類（施設）

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

- 1) 巡回調査では各地ともやや多い。(+)
- 2) 今後、増加期に当たる。(+)

防除上考慮すべき事項

- 1) 発生を見たら防除指針に従い薬剤を散布する。

東京都病害虫防除指針：最新版をご覧ください

(防除指針正誤表などの最新の情報をホームページ等でご確認下さい)

テレフォンサービス

042(525)8407

インターネット上の防除所ホームページ

<http://www.jppn.ne.jp/tokyo>

病害虫の発生予報、発生状況、防除方法
などをお知らせしています。